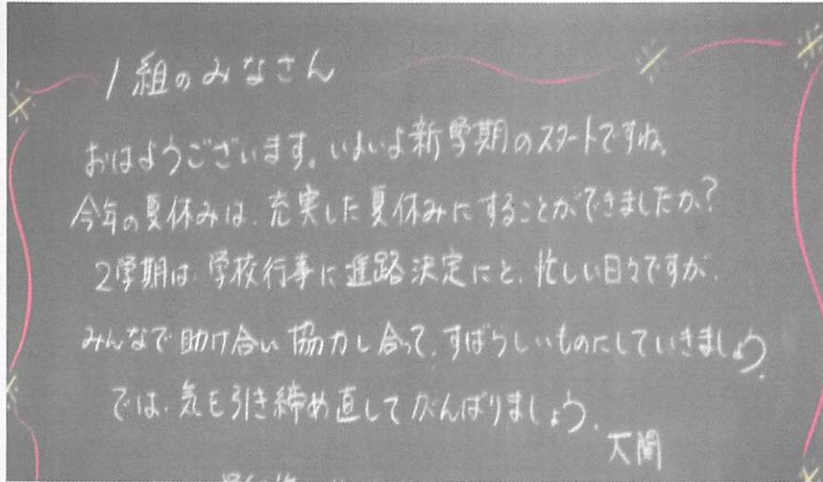


平成27年 8月31日 NO・55

〒311-1114 水戸市塩崎町1016  
 TEL029-269-2116 FAX029-269-3160  
 Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp  
**【ホームページで、カラー版が見られます】**

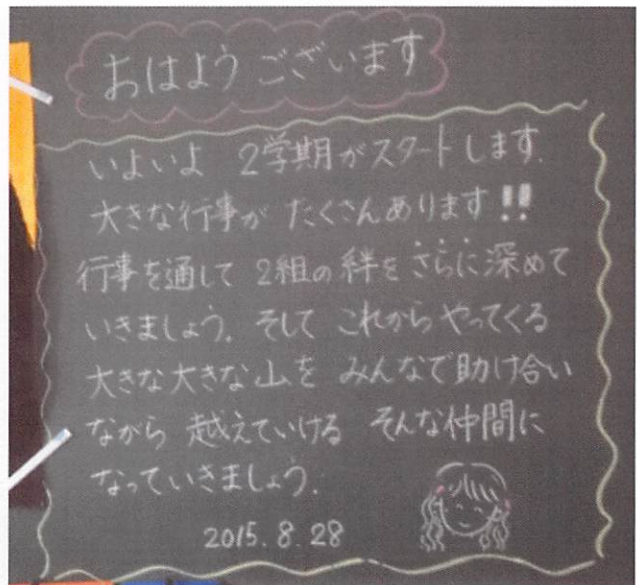
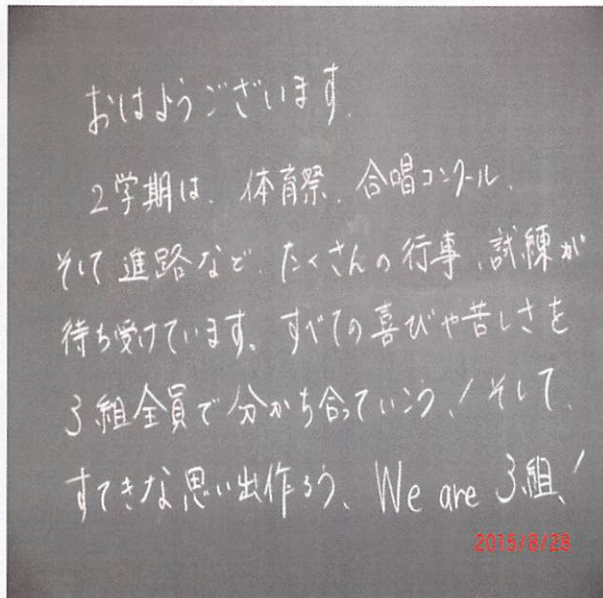


いよいよ2学期が始まった。2学期は、体育祭あり、新人大会あり、文化祭・合唱祭、市の音楽祭ありと、様々な行事が予定されている。また、学習面でも一段と実力が伸びる季節でもある。

このような希望に満ちた2学期を迎えるにあたり、常中では、黒板に写真のような板書が見られた。しかも、全クラスで。

真新しい気持ちで登校してきた生徒たちは、教室に入ったとたん、担任からの熱いメッセージを見て何を思っただろうか。きつと、「よし、がんばろう」という新たな団結がわいてきただろうと思う。そんな生徒たち全員にとって実り多い学期となるよう祈る。

# 黒板に担任からの熱いメッセージ



## 「息流 (いきる)」

校門に立って生徒たちと朝の挨拶運動を行った。夏休み疲れか、やや挨拶の声が小さかった。挨拶は、人が人の心をノックする力を表す。「私は、あなたがそこにいることを認めますよ」という、隠れた思いが「おはよう」の裏に隠されている。挨拶は、社会で生きていくための基本中の基本の力だ。

2学期初日なので本調子ではないとしても、挨拶の声に気持ちが入っていないと感じたときは、さびしい。

また、校歌を歌う声についても元気に歌って欲しいという願いをもっている。生徒たちには、自分に誇りをもてる人間に育ってほしいと願っているからだ。自

分に誇りをもつためには、まず自分が生活している場、例えば学校や学級に愛情と誇りをもつことから始めてほしい。だから、「自分の誇り」「自分のプライド」をもって校歌を歌ってほしいのだ。

校歌を歌うときも「息」を意識することが大切だ。

「息」は「自らの心」と書く。挨拶にしても歌にしても、しっかりと「息」を吐く。自らの心、自らのプライドを息として吐くことを意識する。

「生きる」とは、「息流」のことだ。「流」とは、「何々し続ける」という意味がある。英語で言えば「～ing」つまり、「生きる」とは「自らの心

(自らの魂・プライド)をその場限りでは無く、吐き続けること」を表す。

生徒諸君には、常中魂を大切に「自らの心」を表現できるよう、きちっと息を吐いて挨拶をし、空気を響かせて校歌を歌う生徒であって欲しい。

(学校長より 生徒諸君へ)

